

広報

きょうたんて

vol.45

2007
平成19年

12月号

地域ブランドを守る

厳しい品質管理

冬の味覚「松葉ガニ」漁が解禁

11月6日、カニ漁が一斉に解禁され、多くの仲買人のかたで漁港はにぎわっています。本市の漁港で水揚げされるカニは、多くの漁業関係者のかたの厳しい品質管理により、その高い評価が守られています（2ページ）

心と体と環境に優しい交流の場を “こどもでころ”で創設

久美浜町 **蒲井・旭**に森の全国交流拠点
「ツリーハウス」制作に向け体験講座を開催



久美浜町蒲井・旭でのワークショップで、
ハーネスとロープを利用した
ツリークライミングに挑戦する
小林崇さん（左）と参加者のみなさん

美しい自然が残る久美浜町蒲井・旭地
域で、十月二十日～二十一日の二日間、
「ツリーハウス※ワークショップ（体験
講座）」を開催し、地元住民のかたをは
じめ、遠方からの参加者など、約四十人
が、ツリークライミング（木登り）や漁
業体験を通じて、自然とのふれあいの楽
しさを存分に体験しました。

久美浜町蒲井・旭地域を舞台に、市では、
美しい自然を最大限に生かした地域の振
興を地域のみなさんと一体となって、図
ることとしています。

この地域振興策の一環として、平成二
十年度から、地元住民のみなさんを中心
に、民間企業も巻き込んだ中長期的な取
り組みとして、「ツリーハウス」の森づ
くりを計画。

自然環境と人間の健康を最優先した「心
と体と環境に優しい交流の場」として、
全国に発信することとしています。

今回の体験講座では、日本のツリーハ
ウスの第一人者である小林崇さん（ジャ
パン・ツリーハウス・ネットワーク代表）
を講師に招き、ツリークライミングと流
木や廃木を利用した「木道づくり」を実
施。地元住民のみなさんをはじめ、東京
や名古屋からなど、多くのかたが参加さ
れました。ツリークライミングは、ツリ
ーハウス制作を予定する入り江に立つタ
モの木（高さ約一五メートル）で行われ、小
林さんからハーネス（安全帯）とロープの
使い方を教わりながら、木登りに挑戦。
参加者のみなさんは、約一〇分の高さま
で釣り下げられたロープを手に、「こど
もでころ」で、木登りを満喫しました。

初めてツリークライミングを体験した
子どもたちは「木登りは疲れたけど、楽
しかった」、「木の上からの眺めは、とて
もきれいだ。また登りたい」と笑顔で話
してくれました。

※ツリーハウスとは

木の上にある家、または木を
囲んで柱を立てるなど、木と
寄り添う家の総称。季節とと
もに、木や森、自然をより身
近に感じるここのできる空間
です。

木の形やその地の景観となじ
むツリーハウスをデザインし、
できる限り木を傷つけること
なく、自然環境に負荷を与え
ないことを念頭に制作します。



※写真は、ツリーハウスの例です

も く じ

魅力発信

- ・森の全国交流拠点「ツリーハウス」体験講座 --- 3

産業祭

- ・活気・魅力があふれる京丹後の秋 --- 4

環境

- ・琴引浜シンポジウム開催 --- 6

広域連携

- ・「若狭・丹後・但馬 中日本海交流会議」発足 --- 8

医療改革

- ・医療改革講演会 --- 9

まちづくり

- ・自殺予防対策講演会を開催 --- 10

農産漁村振興

- ・京都市内で京丹後の魅力を発信 --- 13

表彰

追悼・慰霊

- ・戦没者追悼式・森田治良兵衛翁慰霊祭 --- 16

健康

- ・健康ひとくちメモ --- 17

協働のまちづくり

- ・「京丹後、まち、未来債」発行 --- 18
- ・京都ファイアーバーズ 園児との交流 --- 19

国際交流

- ・京丹後市公式訪問団 --- 20

市民交流

- ・豊岡市と京丹後市の市民交流「京丹後市市民号」 21

情報通信

- ・光インターネット・ケーブルテレビの内容などについて 22

職員研修

冬期除雪

まちの情報

ご意見箱

図書館・文化財

冬の味覚の王様 カニ漁解禁

間人・浅茂川漁港で初競り



競り人のいせいのよい声が響き、多くの
仲買人でにぎわったカニの初セリ

京丹後市の冬の味覚の一つ「松葉
ガニ（スワイガニ）」漁が十一月六日、
一斉に解禁となりました。

丹後半島は、漁場が半島沖二五キ
メートルと近く、漁港に水揚げされ
るカニは、生きたまま、競り（せり）
にかけられ、漁業関係者や仲買人の
みなさんによる厳しい品質管理により、

最高級の松葉ガニとして高く評価さ
れています。また、間人（たいざ）
漁港で水揚げされる松葉ガニは、「間
人ガニ」の名で、昨年十月に特許庁
から「地域団体商標」に認定されて
います。

カニ漁解禁となる六日午前〇時を
めがけ、間人漁港から五隻、浅茂川（あ
さもがわ）漁港から一
隻の漁船が出漁。この
日、両漁港では、雄ガ
ニが一・二ト（約千八
百四十匹、雌ガニが四・
二ト（約二万八千八百
匹）水揚げされ、雄ガ
ニは大きさ・量ともに
例年どおり、雌ガニは
やや少なめの量となり
ました。

この日、浅茂川漁港
に見学に来た浅茂川
保育所の子どもたちは、
水揚げされた生きたカ
ニを見て「すごい大き
い。動いてる」と歓声
をあげていました。

11日 久美浜まるかじりまつり

(アメニティーク久美浜公園)

「であい・ふれあい・かたりあい」をメインテーマに開催。今年は「久美浜てんこもり」と題し、農林水産物の展示・即売や大漁鍋が無料で振るまわれました。また、町内産業の紹介や動物ふれあい体験、釣り堀なども催され、多くの来場者は地域の魅力を存分にたん能されました。



11日 ふる里ジャンジャン祭

(網野体育センター周辺)

各種産業が一堂に会する「ふる里ジャンジャン祭」。11回目となる今回も、「丹後ちりめん呉味の市」や「きもの無料レンタル着付け」、「京小町踊り子隊」によるステージなど多彩な催しで盛り上がりしました。



18日 丹後町てんきてんき産業まつり

(道の駅「てんきてんき丹後」)

あいにくの天候により、「てんきてんき産業まつり」はやむなく中止となりました。恒例の「カニ釣りゲーム」などの催しは実施されなかったものの、会場では「間人ガニ」がふんだんに入った温かい「カニ汁」が無料で振るまわれ、用意された約450食が30分ほどでなくなるなど、多くの来場者でにぎわいました。



活気・魅力があふれる京丹後の秋

～各地域で産業祭・文化祭を開催～

11月には、各地域で産業祭や文化祭が開催され、それぞれの地域で市民のみなさんが“京丹後の秋”を華やかに彩りました。各地域とも伝統や特色あるさまざまな催しが行われ、活気と多くの人出で大いににぎわいました。



3日
おおみや
生き活きフェスタ2007
(大宮庁舎周辺)

生き活きと活気あふれるまちをめざすとともに、産業や文化振興を図ろうと開催。商工会・村づくり委員会などによる「屋台村」や、竹炭工作・鯉のぼり絵描きの「体験コーナー」、各種ステージでの催しなどで大いににぎわいました。

3日・4日
峰山産業まつり

(峰山庁舎周辺)

今年で55回目となり半世紀以上にわたり続いている、歴史と伝統のある「峰山産業まつり」を今年も二日間にわたり開催。ステージショーや「きもの古（ふり）ーマーケット」などの多彩な催しが二日間にわたり行われ、多くの来場者で大いににぎわいました。



11日
07 弥栄秋の祭典 (収穫祭)
弥栄病院裏駐車場

弥栄町内で収穫された新鮮な野菜や特産品を販売。ステージでは「弥栄よさこい踊り」や「溝谷太鼓」の披露、「もちまき」などで、活気にあふれました。



大阪市立大学大学院
理学研究科准教授
原口 強さん



琴引浜をはじめ各地の鳴き砂の浜の地質調査をされており、琴引浜の国文化財指定範囲についてご指導いただきました。

「すばらしい砂浜と一体となる街並みや、買い物などが楽しめる環境があればさらにすばらしい。琴引浜に加えて、楽しみがもてるものがあることが大切。

一方で、多くの人が訪れるということは、それだけ交通事故などが発生する危険も増すということなので、そういった面での対応も事前に必要となる」

パネルディスカッション
「環境の世紀における琴引浜保全の意義と役割」
「琴引浜の砂がいつまでも鳴き続けるために」

琴引浜の研究や保全活動・国天然記念物および名勝指定に関わりの深い五人のパネラー（討論者）を招き、「環境の世紀における琴引浜の保全の意義と役割」と題したパネルディスカッション（討論）を開催しました。琴引浜を保全していくうえで、鳴き砂が鳴き続けるための課題などについて討論。各パネラーのご発言の一部をご紹介します。



クリーンアップ全国事務局代表
小島あずささん

国際海岸クリーンアップ日本ナショナルコーディネーターとして活躍。琴引浜にも何度も訪れ、海の環境保全についてご指導をいただいています。

「どんなにすばらしい自然環境も、人の出入りがなくなったり地域の見守る目が行き届かなくなると、不法投棄などによって悪化する。人の目が行き届き続けるように、無理なくできることを続けていきたいと思います。

また、楽しみながら、すばらしい取り組みをやっているんだという気持ちを持って活動していただきたい」

北海道大学
観光学高等研究センター教授
敷田麻実さん



環境保全の仕組みづくりを研究され、琴引浜をテーマに地域外からの支援者と住民の関係について研究・発表をされています。

「これまでの活動を次の世代に引き継ぐ準備も必要。その中で、環境保全の意義を引き継ぐと同時に、保全活動そのもののおもしろさや職業としてとらえる視点が必要。

また、禁煙ビーチの条例化の取り組みなどは、ほかの地域にも伝わっている。海岸保全の先進地として、これからも新しい取り組みに挑戦し、地域外へ発信していくことが大切」



東山高等学校教諭
安松貞夫さん

1987年から琴引浜の漂着物の定期調査を継続。琴引浜を禁煙ビーチとした基礎にもなった、たばこの吸い殻についての調査も行われました。

「日本海のプラスチック汚染を何とかしないと、琴引浜を守ることはできない。鳴き砂の浜は、環境の状態を表す一つの指標にもなるので、琴引浜から日本海や地球の海を見つめるという観点で、情報発信基地の一つとして活躍してほしい。

また、地域の活力も大切。都市部から訪れるみなさんに、京丹後の消費をより増やしていただくような工夫が必要」

鹿児島大学水産学部准教授
藤枝 繁さん



1997年のナホトカ号重油流出事故の重油回収にボランティアとして参加されて以来、海岸漂着ごみに関する研究を行っています。

「これまでの長年に渡る活動により、点から線の活動となっている。しかし、琴引浜だけをいくらきれいにしても、よそからのごみが漂着するので、この活動を琴引浜だけにとどめてはいけません。

琴引浜での海岸保全活動が、地域内でより活発なものとなることに加え、地域外へもより広がるものになることを次の目標としていきたいと思います」

「鳴き砂」研究の第一人者で、「琴引浜の鳴り砂を守る会」結成のきっかけをつくられるなど、琴引浜の保全にご尽力いただきました同志社大学名誉教授の三輪茂雄さんが、10月22日、ご逝去されました。市民のみなさんとともに、ご冥福をお祈りします。

～国天然記念物および名勝指定・ 琴引浜の鳴り砂を守る会設立二十周年記念～ 琴引浜シンポジウム 開催 琴引浜の魅力を全国に発信

全国最良・最大級の「鳴り砂の浜」として知られる「琴引浜」（網野町掛津）が今年七月、国の「天然記念物および名勝」の指定を受けました。加えて、琴引浜を保全するため海岸ごみの清掃をはじめ禁煙パトロール・海岸松林の整備などの取り組みを続けてこられた「琴引浜の鳴り砂を守る会」（会長・松尾庸介さん）が、今年で設立二十周年を迎えられました。今回の指定は、琴引浜の豊かな自然と歴史に加え、官民協働による長年の取り組みを高く評価していただいたものです。

国指定および同会の設立二十周年を記念し、十月三十一日、アミティ丹後（網野町網野）で市および同会の共催による「琴引浜シンポジウム」を開催しました。「琴引浜の鳴り砂を守る会二十年の歴史」と題した「基調報告」や「琴引浜の国天然記念物および名勝指定の意義」をテーマとした「基調講演」をはじめ、琴引浜にゆかりのある著名な方たちによるパネルディスカッションを実施。参加した約百二十人が耳を傾けました。

また、同シンポジウムの開催に先駆け、十月十四日には同会および掛津区・遊区主催による「琴引浜大クリーンアップ作戦」が行われ、地域のみなさんをはじめ小学生など三百人が、清掃を通して琴引浜保全の機運を一層高めました。

基調講演 「琴引浜の国天然記念物 および名勝指定の意義」



文化庁
主任文化財調査官
桂 雄三さん

**「文化財は
将来への行動や選択の礎（いしずえ）」**

京丹後市の郷村断層や豊岡市のコウノトリ・玄武洞など、各地の指定文化財・天然記念物を例にあげ、文化財について説明していただき、「文化財を守り、意味を考え、文化財のある暮らしを続けることにより、地域で暮らすために必要な知識や継承すべき知恵を選択することとなる。それが将来への行動や選択の礎（いしずえ）となり、正しい地域振興や観光のより所にもなる。このことが文化財を残すことの本当の意味である。今回の指定は一つの節目であるが、このすばらしい文化財を引き継いでいくことが大切」と解説していただきました。

基調報告 「琴引浜の鳴り砂を守る会 20年の歴史」



琴引浜の鳴り砂を守る会
事務局長
宇野貞夫さん

**「多くのかたに
関心を持ってもらうことが使命」**

一九九七年のナホトカ号重油流出事故での苦労や琴引浜に流れ着く漂着物の状況など、二十年来に渡る同会の活動について報告。「琴引浜が、国天然記念物および名勝に指定されたことで、琴引浜の保全に対する機運は一層高まる。同会にできることは限られているので、世界的規模ですべての人が環境を大切にす気持ちは持ち、立ち向かう必要がある。少しでも多くのかたに、琴引浜の保全や世界中の海の環境などについて関心を持っていただけるような活動を続けることが、私たちの使命だと思っている」と語られました。

自治体病院を担当 総務省 栄畑潤大臣官房審議官を招き 市立病院の安定経営を探る

医療改革講演会



総務省（公営企業担当）
栄畑潤 大臣官房審議官
昭和53年 厚生労働省（旧厚生省）入省
平成14年 厚生労働省医政局総務課長
平成16年 厚生労働省大臣官房総務課長
平成18年 総務省大臣官房審議官に就任

地域医療を担う公立病院の経営が全国的にも厳しさを増す中、「平成十八年医療保険制度改革」の立案などにも携わられた総務省の栄畑潤大臣官房審議官をお招きし、十一月十三日、峰山総合福祉センター（峰山町杉谷）で、「公立病院改革の目指すべき方向」と題した講演会を開催しました。

市では、昨年十月に「医療改革改善推進会議」（笹野満会長・六人）を設置し、市内の医療対策や市立病院の経営改善などの検討を進めています。今回、持続可能な市立病院の経営とともに、病院改革への理解をより深めようと同講演会を開催。市内の病院関係者など、約二百人が来場し、病院経営改善のポイントについて、熱心に聴講しました。



喫緊の課題である医療改革について
熱心に聴講する参加者のみなさん

占める自治体病院の割合が一割以上に上ることや、過疎地域での医療提供をはじめ、救急・小児・災害医療などの不採算・特殊部門にかかわる公立病院が果たすべき役割を示すとともに、「地域医療における自治体病院が占める役割はたいへん大きい。一方で、医師不足や診療報酬の引き下げなど、公立病院をめぐる経営環境は、全国的にも年々厳しさを増している」と医師不足が地方の公立病院の診療体制を直撃している現状や、診療報酬が上がらず、病院の安定経営が喫緊の課題となっている状況を説明。

また、総務省の「公立病院改革懇談会」（長隆座長・六人）が提示する公立病院の改革に関するガイドラインにも触れ、病院改革に求められる三つのポイントとして▽経常収支比率などの主要な経営指標の目標を掲げ、経営の効率化を図る、▽医師派遣の拠点機能もあわせもつ基幹病院と日常的な医療を提供する病院・診療所への再編成・ネットワーク化、▽地方独立行政法人や指定管理者制度の導入などによる経営形態の見直しを挙げ、「必要となる医療体系は、地域によって異なりますが、公立病院がなくなれば、地方は本当に困ることとなる。公立病院の再編・ネットワーク化にあたっては、既存の施策とあわせ、新たな経営支援策も考えていきたい」と話されました。

また、講演後、市側から「地域にとって必要な医療を提供するための明確な手立ても考えていただきたい。病院経営の背景となる交付税の措置や診療報酬の扱い、医師派遣などの直接的支援について、経営効率化の支援とともにお願いしたい」と発言。栄畑審議官は「交付税の中でも病院経営への支援を講じてきましたが、医師確保についても、予算編成の中で、新たな見合った措置を考え、しっかりと対応しなければならぬ」と公立病院の安定経営における支援とともに、地方における医師確保に向け、力強い回答をいただきました。



共通の地域課題の解決に向け

日本海の中心部に位置する6市長が府県の枠を越え連携

「若狭・丹後・但馬 中日本海交流会議」を発足

来年度 京丹後市で開催決定



共通課題の解決とともに広域的なまちづくりに向け
府県の枠を越え6市長が一堂に会した交流会議
（左から）中貝豊岡市長・中山京丹後市長・井上宮津市長
・齋藤舞鶴市長・村上小浜市長・塚本敦賀市副市長

日本海の中心部に位置する敦賀、小浜、舞鶴、宮津、京丹後、豊岡の六市長が府県の枠を越え、交流・情報交換を行い、相互のさらなる地域振興につなげようと、十一月八日、小浜市役所で「若狭・丹後・但馬 中日本海（なかにほんかい）交流会議」の初会合を開催しました。

本市では、隣接する豊岡市との合同会議をはじめ、十月には「鳥取豊岡宮津自動車道」の整備促進に向けた決起大会（鳥取・兵庫・京都三府県十一市町）を開催するなど、府県を越えた連携による広域的なまちづくりに取り組んでいます。

「若狭・丹後・但馬 中日本海交流会議」は、六市長が一堂に会し、水産資源や森林保護、漁港・港湾整備、歴史的文化財を活用した広域的観光、海岸漂着物による環境問題など、長期的また直近の共通課題について、情報交換や協議を行うとともに、日本海の中央部に位置する若狭・丹後・但馬地域の重要性を内外にアピール。新たな日本海時代の到来に向けて、府県の枠を越え連携し、まちづくりを進めようと、このたび、新たに発足しました。

広域的連携の一層の 強化に向け意見交換

この日、同会議の初開催にあたり、村上小浜市長は「当地域は、古くから大陸との交流の玄関口として、独自の文化を形成・発展してきた。地方分権や道州制の議論が高まる中、今後一層、自治体の広域的な連携が

必要になる」とあいさつ。続いて行った情報交換では、各市が財政問題や医療、産業・観光客誘致を共通の課題としてあげるとともに、本市の「上限二百円バス」の取り組みや、豊岡市の「コウノトリ」を通じた環境経済戦略、宮津市がめざす天橋立の世界遺産への登録の取り組みなど、環境や歴史・文化に基づく特色あるまちづくり事業を紹介。高速道路網の整備促進、北近畿タンゴ鉄道の利用促進とともに「六市の連携による観光ルートをつくってはどうか」などの意見も出されました。

また、今後の具体的な取り組みとして▽共通の情報紙の発行▽六市のホームページのリンク▽同会議への商工会や観光協会などの民間団体の参加を呼びかけることなどを提案。

同会議の最後には、六市の相互の連携・交流を深め、新たな日本海時代の到来に向け、同会議が果たすべき役割と重要性を国内外にアピールする「共同声明」を採択しました。

◇

来年度は、六市の商工会や観光協会、民間団体など、各界の専門家、また幅広い分野で活躍されるみなさんへ同会議への参画を呼びかけ、広域的なまちづくりについて考える大会を京丹後市で開催することが決定されました。

だれもが安心して暮らせる「まち」をめざして 「自殺予防対策講演会」を開催 “自殺予防” ～いま 私たちにできること～

毎年、自殺者数が全国で三万人を超えるという憂慮すべき事態が続く中、市では自殺予防対策を重要課題に位置づけ、昨年、丹後労働基準監督署や北丹医師会、京都司法書士会京丹後支部などの関係機関など十六団体の協力を得て「京丹後市自殺ゼロ実現推進協議会」を設置し、“自殺ゼロ”のまちづくりに向けて取り組んでいます。

そのような中、十月二十六日、広く市民のみなさんに自殺予防対策についての理解と関心を深めていただこうと「自殺予防くいま 私たちにできること」と題した講演会をアグリセンター大宮（大宮町口大野）で開催。自殺予防対策の最前線で活動されている「NPO法人自殺対策支援センター『ライフリンク』」の清水康之代表、また「市自殺ゼロ実現推進協議会」の参与も務めていただいている「社会福祉法人 京丹後のちの電話」の平田真貴子事務局長を講師に招き、自殺予防対策についてのご講演をいただき、訪れた約二百人が熱心に聴き入りました。その概要をご紹介します。



「NPO法人 自殺対策支援センター ライフリンク」

代表 清水康之さん

1972年東京生まれ
元NHKディレクター。NHK在職中に「クローズアップ現代」を担当。自殺対策に関する取材を続けるも、推進役のいない自殺対策に限界を感じ、2004年3月にNHKを退職。自ら自殺対策の「つなぎ役」として活動しようと「ライフリンク」を設立。昨年6月に成立した「自殺対策基本法」の制定にも大きく貢献。

自殺対策は当事者本位の生きる支援 相談窓口同士の連携が解決力を生む

自殺対策とは「生きる支援」

自殺は、自ら選択しての死ではなく、過労やいじめ、多重債務などの社会的要因により追い込まれた末の死である場合が多い。しかし、社会的要因が深く関わる自殺の場合、社会的な対策を講じることで避けることができます。

生きたいと思っている人が、生きる道を閉ざされて自殺で亡くなっているわけですから、自殺対策とは、生きる支援・命への支援であり、生きるうえで障害となっている問題を取り除くということが必要となります。

まず、死にたいと思っている人の声を受けとめる民間ボ

ランティアや行政の窓口が、当事者の置かれている状況をしっかりと整理し、問題を解きほぐし、さらに整理した問題点ごとにどのような解決策があるのかを提示する必要があります。

支援者同士の連携が重要

そのためには、相談窓口同士が互いに「どういう問題解決能力を持っているか、どういう取り組みをしているのか」ということを理解しあい、連携し、さらには包括的に当事者を支えていくんだという相談窓口間の合意が必要となります。

つあります。ひとつは、自分たちにできることをしっかりと把握し、同時にできないことも見極めること。二つ目は、自分たちにできないことをできる人たちと連携しようとすることです。必要に応じて柔軟につながりあうことが大きな解決力となり、それにより必要な支援策を講じることができま



「社会福祉法人 京丹後のちの電話」事務局長 平田真貴子さん

悩みを持つ多くの人の友となり、相談相手となるために1982年4月、「京丹後のちの電話」を設立。1985年から24時間体制の眠らぬダイヤルとして、1日平均約75件、年間2万5,000件を上回る相談を受ける同法人の事務局長、常務理事および研修委員を務められる傍ら、豊富な経験と実績を活かし、京都市教育委員会や日本電話相談学会など多方面でご活躍。

周りの人とのコミュニケーションを大切に 心の絆づくりを

地域でできることが たくさんあります

「京丹後のちの電話」には、一日約七十件の電話相談があります。しかし、電話相談で助けられる人や援助できることは限られています。相手の話を傾聴し、ありのままの思いを打ち明けていただき、心を少し軽くしていただいたり、少し方向性を見出していただくというようなところまでです。「京丹後のちの電話」の活動は、一回の電話相談だけで終わらせるのではなく、二回以降目の電話相談をしていただいたり、また「京丹後のちの電話」の約百八十人のボランティアと一緒に思いを分かち合っているという気持ち

ちで活動しています。

みなさんも地域でできることがたくさんあります。見守り、声をかけ、SOSを発信している人に気づくというこ

とが、みなさんの心の広さ、温かいまなざしによってできるのではないかと思います。電話での相談は、言葉と声だけの限られた情報により、相手の心のあり方や何に困っているのか、どうしたいのかということを探るとても難しい活動です。しかし、地域・ご近所・ご家庭では、言葉と声に加え、表情なども見ることでできます。すべての情報を駆使して相手を理解しよう、あるいは相手に近づこうとしていただきたい。そして相手の話を傾聴することで、連鎖

「お互いさま」の心で 支えあうことが大切

自殺や後追い自殺を防ぐことにもなると思います。

みなさん一人ひとりが、自分の周囲の人とよい関係を築いて、心の絆づくりをしていただきたいと思います。支えあうということは、自分も支えられるということでもあり、「お互いさま」ということが大切です。相談を受ける側が力のあるもの・経験のあるもの・役割のあるもの・知識のあるものとして関わるのではなく、同じ生きる人間同士として、「お互いさま」の気持ちで関わっていただければと思います。

京丹後市自殺ゼロ実現推進協議会では、「わたしのいのち あなたのいのち」と題したリーフレット（冊子）を作成し、各戸へ配布（11月9日）しました。自殺は家族や周囲のかたにも大きな悲しみをもたらす社会問題であることから、こころの健康問題や多重債務問題などの相談窓口を知っていただき、相談していただくなど、自殺者をなくしたいという願いから作成しました。



各戸配布しました冊子をご覧ください



あなたがつらいとき、
近くにいます。

ひとりで悩まないで、こころの苦しみをお話ください。

自殺予防「いのちの電話」

京丹後のちの電話

☎075-864-4343（24時間）

自殺予防いのちの電話

☎0120-738-556 2008年3月までの毎月10日
午前8時から翌日8時
（24時間・無料です）

京丹後市自殺ゼロ実現推進協議会（構成団体）

京都地方裁判所京丹後支部	丹後労働基準監督署
京都府京丹後警察署	京都府丹後保健所
社会福祉法人 京丹後市社会福祉協議会	京丹後ひまわり基金法律事務所
京都司法書士会京丹後支部	北丹医師会
京丹後市商工会	京丹後市人権擁護委員協議会
京丹後市民生児童委員協議会	京丹後市連合婦人会
京丹後市老人クラブ連合会	京丹後市
京丹後市消防本部	京丹後市教育委員会
（参与）社会福祉法人 京丹後のちの電話	

「多重債務相談・支援室」

弁護士さんなどと連携し
債務問題解決のお手伝いをします

市では、自殺予防対策の一環として、多重債務に苦しんでおられるかたを救いたいという思いから、今年四月、「多重債務相談・支援室」を大宮庁舎一階に開設し、市の職員が弁護士さんなどの専門家と連携し、多重債務者のかたの生活再建に向けたお手伝いをしており、開設から十月末までの七か月間で、同支援室に寄せられた相談は百三十五件です。

同支援室では、多重債務の相談に来られたかたから、多重債務に陥った要因や債務状況などを聞かせいただき、内容を整理して調書を作成します。その上で、相談者のかたと一緒に弁護士事務所へ行き、調書の内容に基づいて、相談者に最も適した債務整理方法などを弁護士さんから提案していただき、債務問題の解決へ導きます。債務整理を弁護士さんに受任していただいた場合には、その日のうちに各金融機関へ債務整理の受

任通知を出し、貸金業者からの取り立てを止め、相談者のかたに安心していただきます。
中には、貸金業者から提出された債務の履歴により、利息制限法の上限金利に基づく返済金額を再計算すると、二百万円以上の過払いが発生していることがわかり、過払い分を回収できた事例もあります。
すべての場合で過払いが発生しているわけはありませんが、早めの相談により、より早く債務問題が解決して生活再建に向けてスタートできます。

多重債務相談・支援室

- ◆場所 大宮庁舎 1 階 (☎69-0219)
- ◆開設日 月～金(祝日および開庁日は除きます)
- ◆時間 9:00～16:00

お手紙ありがとうございます

「多重債務相談・支援相談室」の取り組みを行っている中で、同支援室にご来室いただいた相談者のかたから、感謝のお手紙もいただいています。手紙には、「多重債務相談・支援室が開設されていることを聞き、必死の思いで相談に行くと、親身に話を聞いて下さり、私達ですら分りにくくなっている状況を整理し、下浦弁護士様の紹介もしてくださいました。まだ手続中ではございますが、お陰様を持ちまして、久しぶりに安心して暮らせる日々を迎えることができるようになりました。」

しましてもお役に立てたことをたいへんうれしく思います。
◆ ◆ ◆
「多重債務相談・支援室」
西垣善太郎主幹
「相談に来られたかたの喜ばれる顔を見たり、声を聞いたりするときは、お手伝いできてよかったと、相談者としてとても嬉しい気持ちになります。」
多重債務問題は、必ず解消できます。返済しきれない債務を抱え、追いつめられたり家庭崩壊につながる前に、お気軽にご相談ください」



感謝の手紙をいただき、市としても、お役に立つことができ、たいへん喜んでいきます。

とれたて・食べごろを味わって

新鮮野菜を消費者へ 直に届ける大朝市



旬の新鮮野菜を求める来場者でにぎわう朝市会場

市内で朝市を行う十六団体が一堂に集い、十月二十八日、J A京都峰山支店(峰山町新町)で「朝市直売マーケット『きょうたんご』」を開催。新鮮なとれたて野菜などを求め、約千五百人が来場し、大いににぎわいました。
市では、昨年、市内各地で開催される朝市の魅力を一堂に介し、市内外へ発信しようと「朝市直売マーケット」を開催。多くの来場者でにぎわいました。これに続き、本年度は、生産者自らが主体となり、市内に多くある朝市グループを巻き込んだ「京丹後朝市の会」(会長・平林衛さん)を今年四月に発足。同朝市の開催に向け、準備を進めてこられました。

朝市当日は、大根やかぶらなど、収穫したばかりの新鮮な旬の野菜、果物などがずらり。来場者のかたは「朝市で買う野菜は、どれも新鮮で味もよい」と好評。平林会長は「今後も朝市への参加団体を募集し、来年度は、春と秋の二回開催したい。自分たちが丹精込めてつくった野菜などを一人でも多くの消費者のみなさんに提供できるよう、栽培に励んでいく」と話されました。

京都市内で京丹後の魅力を

京都市民のみなさんが発信

丹後王国への道を求めて討論会

都市部のみなさんに丹後の魅力を直に伝えようと、十月二十七日、コープイン京都(京都市中京区)で、「シンポジウム in KYOTO CITY」丹後王国への道を求めて」と題し、京丹後市を知る京都市民のみなさんが、京丹後市の魅力を「生の声」で力強く発信していただきました。

同シンポジウムは、農山漁村と都市住民との交流を仲介する「NPO法人日本都市農村交流ネットワーク協会」(理事長・京都府立大学農学部宮崎猛教授)が初めて主催されたもので、同協会では、さまざまな農林漁業の体



丹後の魅力を紹介、発信いただいたシンポジウム(コープイン京都で撮影)

験事業などを美しい自然の残る本市を拠点に、今年度から展開されています。
シンポジウムでは、瓢亭(ひょうてい)当主の高橋英一さんから「京の食文化と丹後」と題し、京料理に使われる食材と丹後地域とのつながりについて講演をいただきました。また、京都市と本市の伝統芸能に触れていただこうと、京都市民のみなさんが祇園祭りのお囃子「南観音山」を、本市の「飛龍天衆」のみなさんが丹後創作太鼓を披露。
続いて行われた「交流スピーチ」では、花園大学の西村恵信名誉教授、京都府立大学農学研究科の中村貴子助教、洛東食糧品販売企業組合の島田孝志理事長、中山市長、本市内で環境に優しい農業に取り組まれる農家のかたなどが出席。「わが街・わが村を語る」をテーマに、中山市長が本市の自然環境や観光、産業などについて話すとともに、農家のかたから有機栽培や無農薬栽培など、心を込めたこだわりの農法の実践を紹介いただき、都市部のかたからは「都市と農村での二地域での居住の鍵は、人同士のつながり。京都市と京丹後市とのつながりを育むことが大切」と話していただきました。

元公立小学校長

安達爲久夫さん（久美浜町出角）

瑞宝双光章を受章

元小学校長の安達爲久夫さん（久美浜町出角）が瑞宝双光章を受章されました。安達さんは、昭和二十二年四月の京都府熊野郡組合立佐濃中学校教諭を振り出しに、四十年間の永きにわたり教育現場において優れた教育実践を積み重ね、大きな功績を残されました。

特に、昭和五十四年からは、小学校長として、教育に対する誠実で強い情熱と豊かな識見、また温和な人柄と精勤で卓越した指導力により、学校教育環境の整備や教育力の向上にご尽力されました。加えて、昭和五十二年から十九年間にわたり久美浜町バレーボール協会会長を、さらに平成八年から七年間にわたり久美浜町体育協会会長などを歴任。丹後地域の教育の発展および地域から信頼される学校教育に力を注がれるとともに学校体育振興に尽くされるなど、その功績が高く評価され受章されたものです。



安達爲久夫さん

元公立小学校長

給田昭三郎さん（丹後町大山）

瑞宝双光章を受章

元小学校長の給田昭三郎さん（丹後町大山）が瑞宝双光章を受章されました。給田さんは、昭和二十六年四月の京都府竹野郡竹野村立竹野小学校助教諭を振り出しに、三十八年間の永きにわたり、学校教育振興のためにご尽力され、大きな功績を残されました。

特に、昭和五十八年からは小学校長として、地域に根ざした学校運営にあたり手腕を発揮。教職員や保護者、地域住民と協力して、よりよい学校づくりに取り組まれるとともに、郷土愛に満ちたたくましい児童の育成を図るなど、特色ある学校づくりにご尽力されました。また、丹後町校長会長も務められるなど、丹後地方の公教育向上に率先して努められました。加えて、平成二年から四年間、丹後町教育委員会委員長を、また、平成十年から十六年間、丹後町人権教育指導員を、昭和六十二年からは丹後町社会福祉協議会評議員・理事などで社会福祉事業にもご尽力されるなど、その功績が高く評価され受章されたものです。



給田昭三郎さん

元検察庁事務局次長

橋 義明さん（大宮町河辺）

瑞宝双光章を受章

京都地方検察庁に永年勤められた橋義明さん（大宮町河辺）が瑞宝双光章を受章されました。

橋さんは、昭和二十四年五月に中郡河辺役場に奉職後、昭和二十五年十一月に京都地方検察庁に入庁。以来、四十一年の永きにわたり、検察官の事務の統括に努められ、大きな功績を残されました。京都地方検察庁峰山支部を振り出しに、京都地方検察庁総務部、同公安部、亀岡区検察庁、宮津区検察庁など府内各地の検察庁に勤務されるとともに、滋賀県大津地方検察庁、同今津区検察庁・同八日市区検察庁事務局にも併任。平成二年四月からは京都地方検察庁事務局次長として、豊富な知識と卓越した手腕により、管理部門での業務や後輩の指導・育成になどにご尽力されるなど職務を全うされ、その功績が高く評価され受章されたものです。



橋 義明さん

元三等空尉

壺井健二さん（峰山町丹波）

瑞宝単光章を受章

元三等空尉の壺井健二さん（峰山町丹波）が瑞宝単光章を受章されました。

壺井さんは、昭和三十八年三月の航空自衛隊生徒として航空教育隊への入隊を振り出しに、三十七年間の永きにわたり常におう盛な責任感をもって終始積極的に職務を遂行され、自衛隊の充実発展のために大きな功績を残されました。

特に、警戒管制レーダー整備技術員として、警戒管制レーダー・味方識別装置・同関連機器の整備・点検作業などに率先して従事され、寸断の許されない業務の正常な運営に努められました。

さらに、中部航空警戒管制団第三五警戒隊においては、長年の経験から隊員の身上把握および服務指導ならびに人事処遇上の意見具申を適切に実施。上司を的確に補佐されて円滑な隊務運営に貢献されるなど、その功績が高く評価され受章されたものです。



壺井健二さん

地方自治法六十周年

監査委員事務功労者総務大臣表彰を受賞

木村満壽夫さん（久美浜町品田）

旧久美浜町元監査委員の木村満壽夫さん（久美浜町品田）が、監査委員事務功労者として総務大臣表彰を受賞されました。

木村さんは、平成二年八月、旧久美浜町において監査委員に任命され、以来、十一年八か月の永きにわたりその重責を全うされました。

監査委員在任中は、各種の監査はもとより事務の改善や合理化の推進など細部にわたり幅広く分析・指導・助言され、独立した視点による公平・公正な監査業務に努められました。地方公共団体の監査委員として職務に精励され、監査委員制度の発展に寄与されるとともに、行財政の円滑な運営に多大な貢献をされるなど、その功績が高く評価され受賞されたものです。



木村満壽夫さん

平成十九年度

全国社会教育委員連合表彰を受賞

中矢敏郎さん（網野町網野）

中矢敏郎さんは、平成八年から現在までの十一年間にわたり社会教育委員を務められ、旧網野町および本市の社会教育の発展にご尽力されてきました。

特に、旧網野町では、社会教育委員会議の議長を務められるとともに、網野町公民館連絡協議会会長および網野町体育協会理事を歴任されるなど、豊富な知識・経験をもとに「社会教育及び生涯学習の推進について」の提言（平成十年）や「学校週五日制に対応した社会教育の在り方について」の答申（平成十三年）を行いました。

加えて、平成八年四月から平成十三年三月までの五年間、丹後地区社会教育委員連絡協議会会長および京都府社会教育委員連絡協議会理事を務められ、丹後地域の社会教育の発展に大きく貢献されるなど、その功績が高く評価され、京都府からただ一人受賞されたものです。



中矢敏郎さん

京都ファイアーバーズが 京丹後市で秋合宿 市立保育所で 園児との交流



新山保育所で ファイアーバーズとあそぼう



手づくりのバットでバッティングに挑戦

最後に園児たちは、訪問のお礼としてよさこい踊りを披露するとともに、「今日は来てくださってありがとうございました。がんばってください」と声をそろえて選手へ声援を送りました。



本市出身の佐藤選手（バッター）も活躍されました

九日、同クラブ十三人の選手が福祉施設訪問事業として「ファイアーバーズとあそぼう」をテーマに、佐藤雅俊捕手の出身保育所でもある新山保育所（峰山町新山）を訪ねられました。今回の訪問は、市との包括協力協定に基づく地域貢献の一環として実現。年長組の三十六人の園児が、選手と一緒に段ボールでバットをつくったり、ボールに絵を描いたり、自分だけの野球道具を思い思いのデザインで作成しました。その後、選手にボールを投げてもらい、バッティングに挑戦し、選手たちとの時間を満喫しました。

また、十日には島津製作所と、十一日には京丹後社会人選抜チームとの交流試合が峰山球場で行われるとともに、「ファイアーバーズスピードガンコンテスト」や学童野球チームとのミニゲームも実施され、球場では力一杯プレーする選手に声援が送られました。

市と包括協力協定を締結（平成十八年二月）している社会人野球クラブ「京都ファイアーバーズ・ベイスボールクラブ」が、十一月八日～十一日の四日間、峰山球場（峰山町杉谷）を拠点に恒例の秋合宿を実施されました。

同合宿は、「京都ファイアーバーズ支援・連絡た

第1回「京丹後、まち、未来債」を発行

▶ 3億円の募集に対し

1.8倍

294件・総額5億4,060万円の応募

■応募などの状況■

購入希望申込	294件 (個人288・団体など6)
応募総額	5億4,060万円
購入当選者	173件 (個人170・団体など3)
最終購入者	178件 (個人176・団体など2)

※購入当選者の辞退が11件あり、繰上当選者を16件決定したため、購入当選者と最終購入者の件数は異なります。

みなさんから借り入れた資金は、地域の均衡ある発展および安心・安全なまちづくりを進めるため実施する「防災行政無線施設整備事業」ならびに「ブロードバンドネットワーク整備事業」の財源の一部として活用していきます。

市では、「市民協働のまちづくり」を推進する新たな試みとして、市民のみなさんから資金を直接お借りする「第一回京丹後、まち、未来債」の購入希望者を十月二十二日～二十九日までの期間で募集しました。

この間、三億円の発行額（利率一・二六割の固定）に対し、市内の多くの団体・個人などから二百九十四件、総額五億四千六十万円（一・八倍）もの応募をいただきました。市では、応募総額が発行額を超過したため、一件ごとに抽選。三億円の発行額にあわせた当選者を決定し、その結果を申込者全員にお知らせするとともに、十一月二十二日、同公募債を発行しました。



「防災行政無線施設整備事業」の中で、各集落への整備を進める「屋外拡声子局」

平成19年度 久美浜百珍

新たに7件 計97件を認定

(久美浜百珍の会)



新たに認定された食品5点

今年度は、久美浜産の「コシヒカリ無洗米」、「日の菜の漬物」、「こんにゃく」、「さいみそ」、「梅酒」、箱石浜の「ユウスゲ」、「つつじの名所東山公園」の、申請された七件すべてを認定し、計九十一件を「百珍」として広くPRを図られます。

美浜町の自慢の種を「百珍」として認定し、内外に広くアピールする活動を行っている「久美浜百珍の会」（会長・小國猛京丹後市商工会副会長）が、八回目となる平成十九年度の「認定審査会」を十月二十九日に開かれ、新たに七件を認定されました。



「百珍」を一つひとつ厳正に認定・審査されました

豊岡市と京丹後市の市民交流

特急タンゴ・ディスカバリーで行く

京丹後市民号の旅

～コウノトリの飛ぶまち～ 豊岡市を心ゆくまで



「ひだか福祉まつり」へ参加。地域のみなさんと一緒に「健康とふれあいの和の広がり」を願い、空へ風船を放つなど、豊岡市のみなさんとの交流を深めました。

隣接する豊岡市と京丹後市の両市のみなさんが府県の枠を越えて交流と親睦を深めるとともに、両市を結ぶ北近畿タンゴ鉄道（KTR）の利用促進を図ることを目的に、十月二十八日、「コウノトリの飛ぶまち～豊岡市を心ゆくまで」と題して「京丹後市民号」を運行しました。

特急タンゴ・ディスカバリーでは初めてとなる「市民号」には、京丹後市から四十九人が参加し、兵庫県立「コウノトリの郷公園」でのコウノトリの学習や豊岡市の味覚の一



列車からの景色は最高

北近畿タンゴ鉄道 お得な「京都ビジネス自由席特急回数乗車券」

好評発売中

- ★京都駅で切符を買う時間が節約できます
- ★グループでも切り離して1枚ずつ使えます
- ★出張・グループ旅行などにたいへん便利で割安です
- ★福知山経由・西舞鶴経由のどちらの特急（自由席）でも使えます

- 1冊6券制です
- 途中下車はできません
- 有効期限は、発効日から3か月です

乗車駅名	価格	お得額
丹後大宮駅	22,500円	1,740円
峰山駅	24,060円	2,520円
網野駅	25,260円	2,220円
久美浜駅	27,360円	1,860円

「まるごと丹後

乗り放題きっぷ

好評発売中

北近畿
タンゴ鉄道
全線
¥1,700

お値段／おとな1,700円 こども850円

※ご利用は、土曜日・日曜日・休日・毎月1日です。

お得・便利

商品内容

- ★きっぷは、利用日1日限り有効で、当日は何度でも乗り降り可能
- ★北近畿タンゴ鉄道線内の全区画、普通列車または特急列車の自由席が乗り放題

お問い合わせ先 北近畿タンゴ鉄道（☎0772-22-8571）

北京市で観光客誘致を要請

初日・二日目は、北京市へ赴き▽国際観光の振興を図る国土交通省所管の「独立行政法人国際観光振興機構（JNTO）北京事務所」や▽国際ビジネ



北京市旅遊局の幹部職員のかたへ本市の魅力を存分に紹介（左から）馬樹群 旅遊局 旅遊学会会長・訪問団通訳の劉玉萍さん・李雪敏 旅遊局 旅遊促進一処副所長・金久市企画政策部長

今回の訪問では、市民レベルでの交流を積極的に図ろうと、市内で芸術・文化活動に取り組まれるかたを公募。加えて、本市への中国からの観光客誘致を図るため、中山市長、今度市議会議長、沖田京丹後市商工会長、大町丹後観光協会連絡協議会本件代表、野村丹後織物工業組合常務理事、佐藤全国まちづくりサポートセンター会長をはじめとする総勢十五人で訪中しました。

展開の支援などを行う経済産業省所管の「独立行政法人日本貿易振興機構（JETRO）北京センター」▽北京

京丹後市と「友好都市提携」を結ぶ中国安徽省（あんきしゅう）亳州市（はくしゅうし）との友好親善を深めることに加え、中国から本市への観光客の誘致を図ろうと、「京丹後市公式訪問団」（団長・中山市長、十五人）が十一月一日～五日、亳州市と中国の首都・北京市を訪問。北京市の官公庁や大手旅行会社などを訪れ、本市が誇る景勝地や特産品、伝統文化などの多くの魅力を紹介し、中国からの観光客誘致を要請しました。

京丹後市公式訪問団
「友好都市提携」を結ぶ亳州市を訪問
同時に
中国の首都・北京市を訪れ
官公庁・旅行会社などに観光客誘致を要請

亳州市との友好親善
両市が観光PR・文化交流

亳州市では、方春明（ファン・チュンミン）亳州市長と会談。市民のみなさんにも広くお互いのまちの歴史や文化、産業などへの理解を深めていただくこと、相互に市の紹介コーナーを設置するとともに、両市の市民同士が友好の絆を深め、市民レベルでの交流・観光訪問の仲展などを約束する合意書を取り交わし、今後の観光の受け入れ推進をはじめ、交流の具体化について確認をしました。

懇談では、中国語の「観光パンフレット」（A4版・十二ページ・五百部）や本市の四季・特産品・温泉などのふんだんな魅力を紹介する写真リーフレット、日本最大・最良級の琴引浜の「鳴き砂」を持参し、本市の環境の美しさ・観光の魅力を存分にPR。また、北京市旅遊局、地元の旅行会社の幹部のみなさんなどの意見交換会も行い、具体的な中国からの観光客受け入れを進めるための相互の連携に向けての要請と意見交換を行いました。

市内の大手旅行会社「北京海外旅遊有限責任公司」▽観光などを所管する北京市の行政当局「北京市旅遊局」▽北京市内の最大手旅行会社「中国国際旅行社総社」を訪問。それぞれ責任者のみなさんと有意義な懇談・要請を行いました。



着物の魅力を体感する
亳州市のみなさん

国際交流

ケーブルテレビのサービス

ケーブルテレビサービスの内容

サービス事業者名	全関西ケーブルテレビジョン
○テレビ自主番組放送	
○テレビ再送信（アナログ・デジタル地上波、衛星放送）	
○ラジオ再送信（AM・FM）	



ケーブルテレビサービスのメリット（利点）は、「テレビ自主番組放送」の提供です。市内のさまざまな情報を、操作が容易で身近なテレビを使って、迅速に伝達することで、日常生活の利便性や災害時の安心・安全の向上に役立ちます。また、共同受信施設でデジタル放送を受信するには、受信点設備の改修が必要になります。従来の組合施設の維持とは別に、デジタル放送受信のための臨時的な改修費用が必要となります。こうした共同受信をされている地域のかたも、ケーブルテレビサービスにご加入いただければ、組合設備によらずに、戸別のアンテナ受信と変わらない映像が受信できるようになります。

ケーブルテレビの利用料金

			事前申込期間	事前申込期間終了
初期費用	加入手数料		無 料	10,500円
	引込線接続工事料		無 料	36,750円
	その他工事料		無 料	実 費 (50,000円程度)
宅内費用	宅内工事費		10,500円～ (宅内のテレビ配線の状態によって工事費が異なります)	
月額費用	月払い	一戸建て	945円	997円
		団体（共聴組合・集合住宅）	840円	892円
	年一括払い	一戸建て	10,710円 (月々893円)	11,340円 (月々945円)
		団体（共聴組合・集合住宅）	9,954円 (月々829円)	10,584円 (月々882円)

（平成19年10月現在・金額には消費税を含みます）

※1戸1契約で、複数台のテレビがある場合も同一料金です。（ただし、NHK受信料は別途必要です）

※事前申込期間は現在未定ですので、今後決定しましたら改めてお知らせします。また、月額利用料は、事前申込期間終了後も加入時の利用料が引き続き適用されます。

※ケーブルテレビサービスまたはインターネットサービスのどちらか一方だけのご利用もいただけます。

※団体・集合住宅の最小単位および旅館などの利用料金は、現在、未定です。今後決定しましたら改めてお知らせします。

悪徳商法にご注意ください

テレビ調査人や工事人を名乗って不正請求を行ったり、郵便などによる振り込め詐欺（架空請求）を行ったりする事例がおきています。
地上デジタル放送に関する誤った情報や不十分な情報にもとづいて、関連商品・サービスを売りつける悪徳商法にご注意ください。

光インターネット・ケーブルテレビサービスの 内容および料金について

本紙9月号でお知らせしました、光インターネットやケーブルテレビの両サービスについて、今回はその内容および料金についてご案内します。

「公設民営方式」による整備・運営

市が公設で光ファイバ網を整備します。事業費は概ね45億円ですが、国の助成制度を活用するため市の負担は、11億円（総事業費の約4分の1）となる見込みです。また、サービス提供については、運営に関するノウハウのない市が直接行うのではなく、運営に関するプロである民間事業者任せの民営方式で行います。市では、民間のサービス提供事業者を選定し、「公設民営方式」により安定したサービス提供をめざします。

平成21年末からサービスを開始（予定）

光ファイバ網の幹線工事を平成19年度から21年度にわたる3か年度で実施するとともに、家庭や事業所への引き込み工事は平成21年度から22年度までの2か年度で行う計画としています。このため、光インターネットおよびケーブルテレビサービスの提供開始は、平成21年末の予定です。

光インターネットのサービス

通信事業者のサービスの内容

サービス事業者名	N T T西日本
○光ファイバによる超高速通信サービス	
○光IP電話（電話機、電話番号そのまま全国一律通話料金）	
○映像番組サービス	

市内では、ADSLサービスが約9割の世帯で利用可能になっていますが、局舎からの距離により通信スピードは異なります。また、そのほかの地域では低速な回線しかなく、インターネット利用に不便をきたしています。さらに高速な光インターネットについては、近畿地方のある県ではADSLサービス利用者より光インターネット利用者のほうが多い状況となっているなど、今後もこの傾向が続くことが想定されます。

今回の光インターネットのサービスは、西日本全域で提供される一般的なサービスで、京丹後市も平成21年末からサービスエリアとなる予定です。なお、平成19年10月現在の利用料金は下表のとおりです。

インターネットサービスの利用料金 フレッツ・光プレミアム（ファミリータイプ）

初期費用 〔参考例〕	5,040円
月額費用 〔参考例〕	約6,600円～7,000円 ※プロバイダにより異なります

（平成19年10月現在のものです・消費税を含みます）

参考例では、「ひかり電話」を利用した場合の金額としていますが、「ひかり電話」の申し込みは任意です。また、映像番組サービスの利用は別料金となります。



研修生だより

市では、職員研修の一環として、経済産業省、資源エネルギー庁、京都府、財団法人自治体国際化協会、財団法人全国地域情報化推進協会、財団法人京都産業21へ各一人を派遣しています。そこで今回は、中央省庁などでの研修状況や業務内容、これまでの感想などについてご紹介します。

京丹後市の未来を担う

さまざまなことを吸収し 幅広い視点で

総務部財政課 主事 永美崇志
研修先 京都府総務部自治振興課
研修期間 平成19年4月から1年間



研修先の状況

私が研修を行っている「京都府総務部自治振興課」は、総務企画・行政・税財政・地域力再生の各担当で構成されており、主な業務としては、市町村自治の振興・行財政支援・地域力再生プロジェクトの展開・選挙管理委員会事務局などを主な業務としています。課内には、府職員をはじめ、総務省や市町村職員を含めた三十三人が毎日の業務を行っています。

私の仕事

私が所属する「税財政担当」

は市町村の税政と財政に関することが主な業務で、私はその中でも財政を担当しております、主に次の業務を行っています。

- ①市町村の予算額等調
市町村の当初予算額、補正予算額、決算見込額などを把握するための調査です。
- ②地方債
災害復旧事業債、一般廃棄物処理事業債、水道事業債、ガス事業債について担当しています。なお、地方債とは、「地方自治体の借金」のことで、主に市町村が事業を行うときの財源となります。
- ③地方公営企業決算統計
市町村の各公営企業（上

これまでの感想

この半年間、府内市町村からの報告を取りまとめる中で、京丹後市で仕事をしていた中ではわからなかったほかの市町村の財政状況、公営企業の経営状況などがわかり、視野が広がっています。

また、業務を行ううえで、市町村などの担当のかたから質疑を受けることが多く、京丹後市で仕事をしているときは質問する側でしたが、現在は答える側となり、どのような質疑に対しても責任のある返答をしなければならぬため、違う立場での責任の重さを痛感しているところです。

研修もあと半年余りとなりましたが、このような研修の機会を与えていただいたことに感謝し、残りの期間も四月当初の緊張感を忘れることなく、あらゆることをどん欲に吸収しながら、幅広い視点で仕事ができるよう全力で業務に励んでいきたいと思っています。

研修先の状況

（財）全国地域情報化推進協会（通称APPLIC）（アプリック）は、来たるべきユビキタスネット社会（※）の実現に向けて、ICT（Information and Communication Technology）（※）を活用することで得られる高付加価値な住民サービスを享受できる地域社会の構築をめざし、政府・都道府県・市町村のネットワークを介した業務の連携や公共サービスを提供している民間企業との連携についての検討を進めています。

これら業務連携の基盤となるものが、地域内外のあらゆる情報システムを連携させるための共通基盤である「地域情報プラットフォーム」です。

「地域情報プラットフォーム」により可能となる住民サービスの一つに、引越しの手続きがあります。現在は、転出元・転入先の市役所や郵便局・電力会社・ガス会

私の仕事

（財）全国地域情報化推進協会は民間企業からの出向者がほとんどで、自治体からの出向者は私一人です。その中で私は、主に普及促進に関する業務を行っており、各委員会の準備やセミナー、自治体職員向けの研修（自

治体CIO育成研修）を実施しています。セミナーでは、地域の情報化を推進しているかた（政府関係者、自治体、学識経験者、民間企業）に参加していただいています。単に資料を読むのではなく、実際に活動されているかたに直接お会いし、会話をさせていただくたびに刺激を受けています。都市部・山間部に関わらず、先進地では地域の課題解決のためにICTをその地域の特徴にあわせて有効に活用し、地域活性化を図っています。京丹後市では、今年度「京丹後市地域情報交流モデル構築事業」を実施します。この事業により、京丹後市内外のかたがインターネットのサイトに登録し、観光・産業・定住などいろいろな分野でのコミュニケーション（情報交流）が行えるようになります。また、この事業へ当協会を経由してアドバイザー（助言者）を派遣する予定をしています。

これまでの感想

この研修でICTは、あくまで「高付加価値なサービスを提供できる地域社会を構築するためのツール（道具）」であり、それを使う「人」が大切だということを、改めて実感しました。京丹後市に帰任後は、ICTを活用し京丹後市の発展のために貢献できる人材になれば幸いです。

（※）ユビキタスネット社会とは

ネットワークや機器を意識することなく「いつでもどこでも、何でも、だれでも」ICTを利用できる社会

（※）ICTとは

ICT（情報技術）にC（コミュニケーション）が加わったもので、情報を管理するだけでなく、ネットワークを通じて情報を流通させたり共有したりすることが大切だということを示すもの

自然・景観・歴史・文化 京丹後市の魅力を五七五と挿絵で紹介

紙上「いろは歌留多」



京丹後市の魅力を結集した
「京丹後市いろは歌留多」
(写真) つくる会メンバーの東世津子さん

市内の豊かな自然や名所、歴史、文化などを「いろは」順に、親しみやすい五・七・五の歌と、色彩豊かな挿絵で紹介する冊子「京丹後市いろは歌留多（かるた）」が、このたび完成しました。

自分たちの住む京丹後市の魅力を知ること、将来のまちの繁栄・発展につなげていこうと、昨年一月に市内の有志十三人のかたが「京丹後市いろは歌留多をつくる会」（芦田行雄代表）を結成。約二年をかけて、同書の発行に取り組みしてきました。

同書は、B5判・六十四ページ・四色カラー刷りで、「いろは」四十七に京丹後市の「京」を加えた四十八のテーマで市の魅力を紹介。同会メンバーが詠み上げた歌と簡潔な解説、味わい深い挿絵で、六町から満遍なく選択されたテーマを紹介しています。

同会のメンバーは「子どもにも読みやすいよう漢字にはふりがなを打ち、楽しんで読めるようにしました。市の歴史・文化を学べるので、学校の教材や公民館などに置いていただき、一人でも多くの人に読んでいただきたい」と話されました。

この本のお問い合わせは、東世津子さんまで（☎七五〇〇七三）

除雪期間12月1日～3月15日 積雪10cm以上で出動



除雪についてのご相談は、
建設部管理課（☎69-0510）または
市民局地域事業課へご連絡ください

寒い北風が吹き、今年も降雪の季節がやってきました。市では、本年度の「除雪計画」を策定し、市内の業者のかたや地区へ委託して除雪を行います。除雪期間は、十二月一日～三月十五日の三か月半で、積雪量が一〇センチメートル以上のとき、状況判断を行い、原則午前五時から出動します。

市が行う除雪は、市道延べ千六百三十一路線・総延長五・七キロメートルで、京都府が行う国道・府道の除雪と連携して交通の便を図ります。

また、降雪の状況によっては、除雪対策本部を設置し、雪害の防止対策を行うこととしています。

安心・安全な冬を過ごすため
除雪へのご協力をお願いします

京都府丹後文化会館イベント情報

お問い合わせ ☎62-5200

平成19年度 丹後文化芸術祭

第19回 ジュニア文化祭



12/16 (日)

丹後管内の幼児から高校生までが一堂に集い、創作ダンスや日ごろ練習を積み重ねた文化活動の成果を発表します。

◎場 所 京都府丹後文化会館
◎時 間 13:00～16:00
◎入場料 無料
◎主 催 丹後文化芸術祭実行委員会
ジュニア文化祭推進委員会

市民でつくる第九コンサート



◎場 所 京都府丹後文化会館
◎開 演 15:30 (開場14:30)
◎入場料 一般4,000円
学生 (高校生以下) 2,000円
(当日各500円増)

※全席自由/税込
※前売券は会館窓口、各プレイガイドで発売しています

◎主 催 京丹後文化のまちづくり実行委員会
◎主 管 丹後第九をうたう会
◎後 援 京都府・京丹後市・京丹後市教育委員会

除雪作業を安全に、かつ迅速に行うため、次のことにご注意ください。とともに、みなさんのご協力をお願いします。

道路上には
絶対に自動車などを
置かないでください

除雪作業中に車を傷つけたり、脱輪横転などの事故につながります。また、その区間は除雪ができませんので、みなさんのご迷惑になります。やむを得ず置かなければならない場合には、その大きさがわかるように、赤い標識などを立ててください。

屋根の雪を

道路上におろしたときは

各個人で排雪してください。路上に雪をばらまいた場合、凍結などによって歩行者の転倒、自動車のスリップなどの事故につながりますので、慎んでください。

積雪が多くなると
路上以外に雪を
押し出さざるを得ません

除雪した雪により、隣接する土地にある庭木や農作物、塀などを破損する恐れがあります。雪の下に何かあることがわかるよう、竹竿に赤い旗をつけるなど、目印をしてください。また、

イノシシなどの獣害対策として道路法面に設置してある電気柵やフェンスなどは、除雪期間までに片付けてください。

除雪作業で玄関前など、雪の取り残しができる、ご迷惑をおかけすることがありますが、ご理解をお願いします。また、除雪車の後について歩くのは、たいへん危険ですから絶対におやめください。

除雪車の通行を
妨げるもの（竹や木など）

所有者のかたが、速やかに取り除いてください。

歩道や路肩の除雪に
ご協力をお願いします

歩道や路肩は、大型除雪車での除雪は困難ですので、各家庭での除雪にご協力をお願いします。

排雪のために
溝ふたなどを開けたときは

必ず元に戻してください。

消雪パイプで散水中には
自動車は最徐行してください

しぶきが飛び、歩行者や付近の民家にたいへん迷惑がかかります。ドライバのみなさんは、思いやりのある運転を心がけてください。

A 中央部は「あも青」、外側は「シェードⅡ」を使用しています
八丁浜シーサイドパーク多目的芝生広場の中央部の芝は、「あも青」といい、「シーシヨアパスパラム」



スポーツ大会などで
市内外の多くのかたに
親しまれる芝生広場

【市外・男性】

Q 八丁浜シーサイドパーク多目的芝生広場の芝の種類を教えてください
八丁浜シーサイドパークには、かなり広い芝の公園がありますが、とてもきれいなので、その芝が何の種類なのかを詳しく知りたいです。
何種類か組み合わせているように思います。外側と中側でも違う質の芝ですし、中側でも一種類だけではないと思うので、参考にさせてもらいたく、お忙しいとは存じますがよろしく願います。

「ご意見箱」投稿に際してのおねがい

ご意見箱へお寄せいただくご意見には、特定の個人や団体などへの誹謗・中傷を除き、すべてお答えすることとし、お名前や連絡先をご記入いただいているかたにつきましては、直接お答えもさせていただきます。

一方、お名前や住所などの連絡先の記入のないものにつきましては、市のホームページおよび広報紙でお答えすることとしています。

ホームページには、個人情報に関するものを除き、随時掲載していますが、広報紙は月に1回の発行であり、どうしてもお答えを掲載するのに時間がかかってしまいます。また、広報紙では紙面が限られているためご意見やお答えを一部割愛して掲載することとなります。

これまで、お名前や連絡先などが記されていたご意見では、ご意見の内容を確認させていただき、できる限り正確でいねいな回答をお返しするように努めています。お名前や連絡先などが記されていないご意見につきましては、再質問的に何度もいただいているご意見もあります。正確な回答をできるだけ速やかにお返しするために、住所をはじめ、お名前・連絡先などをぜひご記入ください。

【市内・男性】

Q 市内の道路から電柱を撤去し、みんなが歩きやすい道路にしてください
市内から、電柱をすべて撤去（地中化など）していただいて、もう少し、歩きやすい道にいただけないでしょうか。

【管理課】

また、電線の地中化につきましては、電気・通信線路や上下水道管などを一括して埋設する、いわゆる共同溝を道路内に埋設することにより可能になりますが、道路敷地内の施設設置スペースの確保や、市および電気事業者などの計画的な事業費負担が必要となることから、関係団体間で事業化へ向けての調整を行い、

【都市計画・建築住宅課】

という芝の一品種で、キメが細かく芝の密度が高く、繁殖力、耐塩性を有するためスポーツ用広場には最適ですが耐病性にやや劣る西洋芝です。外側の芝は、「シェードⅡ」といい、耐寒性が著しく改良された「セントオーガスチングラス」の選抜品種の西洋芝です。耐陰性、耐寒性、耐塩性に優れ、病害虫、雑草の侵入を防ぎ、踏圧にも強いため管理費がかからない芝草です。

A 道路の無電柱化は、多くの予算と調整を要するため、今後の課題とします
道路上から電柱を撤去する方法としては、道路に隣接する民地に移設する方法と、電線の地中化をする方法が考えられます。

合意を得る必要があります。この地中化事業につきましては、国が策定する平成十六年「無電柱化推進計画」（平成十六年5年間）に基づき、主に土地区画整理事業や市街地再開発事業とあわせて事業が実施されていますが、対象が地域交通の骨格となる幹線道路や歴史的まち並みの保全が特に必要な地区とされていますので、現在、京丹後市内では今後の課題としています。

A 上限二百円バスの将来性も考え、丹後海陸交通（丹海バス）と前向きな検討を進めていきます
昨年の十月からはじめた上限二百円バスの実証運行では、最近二か月（七月～八月）は、間人～峰山間では、乗車人員が実証前のおよそ三倍となり、特に朝夕の通学・通院・通勤の時間帯においては、満車となるなど、多くのかたにご利用いただいています。『朝夕の大型バスの運行』



10月から、運行路線を市全域に
拡大した上限200円バス

Q バス利用者の多くなる朝夕方には、大型バスの運行を検討してください
いつも丹海バスに乗っています。昨年十月一日から市内の一部で、バスの運賃が上限二百円になりましたが、それに伴い乗客が増えたと思います。しかし、バスが小さいです。朝はほぼ始発からなので座れますが、夕方途中まで立たないといけません。乗車人数の多くなる時間帯だけでも大きいバスにならないのでしょうか。

つきましては、お客さまが安心して快適にバスをご利用いただくうえで、必要であると認識していますが、経費削減のため車両の小型化を進めてきたことと、限られた車両台数の中では、たいへん困難な状況にあります。しかしながら、今年十月から新たに上限二百円となった路線でも、およそ二倍の乗車人員増となっている路線があるなど、上限二百円バスの将来性も考慮し、大型バスの購入も

Q 終戦記念日に黙とうのため、サイレンを鳴らしてはいかがでしょうか
毎年八月十五日の「終戦記念日」には、日本武道館で「記念式典」が行われ、正午の時報を合図に一分間、黙とうを捧げ、亡くなられた御霊（みたま）に対し、哀悼の意を表しています。この日は、市内でも正午には音楽を止め、サイレンを一分間鳴らして、戦争で亡くなられた御霊に対し、哀悼の意を表するため、黙とうしてはいかがでしょうか。

A いただいたご意見を踏まえ、改めて検討していきます
市では、これまでから、「きょうたんごおしらせ版」などで、日本が経験した戦争で、犠牲となられたかたのごめい福とともに、世界の恒久平和を祈るため、広く市民のみなさんに広島、長崎への原爆投下や終戦記念日の日時などをお知らせし、黙とうを呼びかけているところです。

また、各町の状況としましては、市民局ごとに、管内放送や半旗の掲揚などをそれぞれで行っています。このたびお寄せいただきました戦争の犠牲者のかたに対する哀悼の意を表することは、たいへん意義のあることと思います。お寄せいただきましたご意見を踏まえまして、改めて検討させていただきますとともに、今後とも、広報紙などを通じて、広く市民のみなさんへお知らせしていきたいと思っています。

【市民課】

含めて、現在、丹海バスと前向きに検討しています。市としましては、今後も、よりわかりやすく・より使いやすい公共交通の実現に向け、可能な限り、市民のみなさんのご要望にお応えすることができるよう、取り組んでいきますので、ご理解とともに、バスをはじめ、北近畿タンゴ鉄道（KTR）など、公共交通のご愛用につきましてよろしくお願い申し上げます。

そこで、来年でも、再来年でもいいので、「丹後大震災記念日」と同じく「終戦記念日」にも、正午に一分間サイレンを鳴らし、過去の大戦で亡くなられた御霊に対し、哀悼の意を表するため、黙とうをされたらと思い書かせていただきました。

【市内・男性】

あなたの声を市政に 「ご意見箱」

紙面の都合によりご意見などを一部割愛させていただきます。

京丹後市の文化財 三五

久美浜町円頓寺

山の神一号経塚出土

銅経筒（どうきようづつ）

今回は、久美浜町円頓寺（えんどんじ）の「山の神一号経塚出土の銅経筒（どうきようづつ。青銅製の経筒）」についてご紹介します。

経塚（きようづか）とは、お経を容器に入れて土の中に埋納したものを指します。今からちようど千年前の寛弘四年（一〇〇七年）に藤原道長が金峯山（きんぶせん）に紺紙金泥経（こんしこんでいきよう）を埋納したことにはじまります。仏教思想が廃れるという末法（まっぽう）思想が流行した平安時代後期から鎌倉時代にかけて、全国的に流行しました。

円頓寺に残る銅経筒は、宝暦十三年（一七六三年）〜天保年間（一八四三年）に編さんされた「丹哥府志（たなかふし）」によれば、円頓寺の裏山にある「山の神」社を再建

した際に掘り出された唐金（からかね）の壺であることがわかります。本紙前号でご紹介しました「熊野十社権現懸仏（くまのじゅうにしやごんげんかけぼとけ）」は、この時に一緒に掘り出されたものと伝えられています。

経筒は、方形の基壇（きだん）上に置かれており、筒の蓋には火焰宝珠（かえんほうじゆ）がついています。高さは三四・五センチメートル、蓋の直径は一〇・五センチメートルです。丹後地域において基壇がつくられた経筒は、この銅経筒のみです。

筒の外側には銘文が刻まれています。銘文には、「散位従五位下大江朝臣忠氏（さんいじゆごいげおおえあそんただうじ）」を願主（がんしゆ）、「女施主橘氏并子息等」を施主（せしゆ）としてつくられたことが記さ

れています。大江忠氏は、ほかに史料がないため不明ですが、当時の都であった平安京にいた人物と推定されます。

経筒をつくった人物は「伴成包」と記されています。伴氏は、藤原道長が金峯山に埋納した銅製経筒をつくった伴成助が知られています。同じ伴姓を名乗っている点から、関係する人物の可能性が高いと考えられます。また、蓋に火焰宝珠を付けた銅製経筒は、丹後地域では籠神社（このじんじや）出土のものがもう一点知られているのみです。以上の点からこの銅経筒は、都でつくられた可能性が高いものと言えます。

また、銅経筒中に納められたお経は残っていませんでしたが、銘文に



山の神一号経塚出土
銅経筒
（どうきようづつ）

市立図書館 ご案内

京丹後市の「お地蔵さんの絵本」紹介

「お地蔵さん」は、日本の各地で、とりわけ子どもを守る仏さまとして崇められています。京丹後市にはそのお地蔵さんに関する絵本がいくつかあります。

丹後町小脇の「小脇の子安地蔵さん」（絵：織戸昭徳 文：東 世津子）、弥栄町吉津の「吉津の穴地蔵」（絵：辰巳雅章 文：芦田行雄）、「Ana-Jizo in Yoshizu」（「吉津の穴地蔵」の英語版）のほかに、この秋、「新兵衛じぞう」（絵：津田櫓冬 原案：安田正明・千恵子）という絵本が出版されました。この絵本は、冬が近づくと思わらを編んだ蓑と笠が着せられることで有名な、大宮町の「平智のお地蔵さん」が建てられる背景となった文政一揆の歴史的な事実をもとに描かれています。また、「平智地蔵の謎」という資料集も同時に出版されました。

それぞれの絵本には、お地蔵さんが建てられたいわれと、作者の丹後に対する思いが、美しい絵と言葉で表現されています。

市立図書館にも、これらの絵本を揃えていますので、ぜひ一度、手にとってご覧ください。そのほか、大宮町の「小町ものがたり」、峰山町の「絹屋佐平治ものがたり」などの絵本もあり、丹後はまさに民話の宝庫です。市立図書館では、丹後のよさを見直すためにも、これらを子ども達に語り継ぐことの大切さを感じ、来年3月に「丹後の民話を楽しむ会」の開催を予定しています。



「科学あそび教室」を開催（10月13日 丹後図書館）

丹後地域公民館において「科学あそび教室」を開催し、ホログラムシート（分光シートとも言いいます）を使った「光の万華鏡」をつくりました。それぞれ個性的な万華鏡に仕上がった、光の性質の「不思議」について体験しました。



「絵本作家 長谷川義史さんによる講演会」を開催（10月21日 峰山図書館）

「峰山読み聞かせ推進活動実行委員会」の主催で、絵本作家 長谷川義史さんの講演会が開催されました。ユーモラスでサービス精神あふれる長谷川さんの、楽しい中にも“ホロリ”とする自作絵本の読み語り、ウクレレを弾きながらの歌、「ライブ紙芝居」、子ども参加型の「お絵描きしりとり」など盛りだくさんの内容でした。約150人の参加者は、「長谷川ワールド」に浸り、楽しい時間を過ごしました。

峰山図書館の階段の壁面に、講演会の中で描かれた絵を展示していますので、ぜひご覧ください。



12月の休館日

17日（月）・24日（月）・28日（金）～31日（月）

1月の休館日

1日（火）～4日（金）・7日（月）

※峰山・あみの図書館、大宮・丹後図書室には、ブックポストがありますので、休館日の返却にご利用ください。
※休館日は、本紙発行日の12月10日から1月10日までを掲載しています。

火災予防に一役 京丹後市火災予防ポスター

「秋の全国火災予防運動」(十一月九日～十五日)の一環として、防火意識の高揚を図るため、市消防本部が市内の小学校四年生を対象に募集していた「火災予防ポスター」で、大宮第三小学校の田崎鼓さんが特選に輝き、十一月一日、上田消防長から賞状と記念品を贈呈しました。

「火災予防ポスター」は、ポスターの製作を通じて、学校や家庭において火災予防の意識を高めてもらおうと毎年募集しているもので、十三回目となる今年は市内の二十七校から五百十点もの応募をいただきました。

特選に輝いた田崎さんの作品は、「ちよつとの油だんで火事になる」の文字とともに、たき火の火が大きくなる様子があざやかな色彩で描かれています。

市消防本部では、B2版のポスターを八百枚作成し、市内の学校や事業所などに掲載して、広く市民のみなさんに火災予防を呼びかけていきます。

入賞されたみなさん

(敬称略)

特選	田崎 鼓	大宮第三小学校
入選	石田 一	黒部小学校
入選	神村 侑希	溝谷小学校
入選	西村 美輝	大宮第一小学校
佳作	大下倉博史	鳥取小学校
佳作	竹中 美玖	大宮第一小学校
佳作	田中 巴深	大宮第一小学校
佳作	平田 暁稔	丹波小学校
佳作	平井 航稀	溝谷小学校
佳作	瀬戸 花音	野間小学校



特選
大宮第三小学校 4年生
田崎 鼓さん

防災意識の高揚に「防災啓発ポスター」を作成

京丹後建設業協会

防災の啓発を図ろうと、京丹後建設業協会(上田俊六会長)が、市内の小中学生を対象に募集された「防災啓発ポスター」の入選作品表彰式が、十一月七日に峰山地域公民館(峰山町杉谷)で開かれました。

同協会では、平成十六年の台風二十三号の被害を教訓に、防災に関する図画を描くことで、子どもたちや家庭で防災意識を高めてもらおうと、市内六町の小学校の児童を対象に、巡回して昨年から募集。二回目となる今年は、峰山町内六校の五・六年生を対象に募集し、二百十七点の作品が寄せられ、特選七点と入選三点が選ばれました。

同協会では、入選以上の作品でポスターを作成され、万が一の災害に備えて防災備蓄品を整備されている同協会防災倉庫(峰山町杉谷)壁面の掲示板などに貼られ、広く市民のみなさんに防災を呼びかけられます。

同ポスターは、平成十六年の台風二十三号の被害を教訓に、防災に関する図画を描くことで、子どもたちや家庭で防災意識を高めてもらおうと、市内六町の小学校の児童を対象に、巡回して昨年から募集。



京都府丹後広域振興局長賞
金子真由さん



入選されたみなさん

(敬称略)

京都府丹後広域振興局長賞	金子 真由	吉原小学校 6年生
京丹後市長賞	小牧 誠	峰山小学校 6年生
丹後労働基準監督署長賞	坪倉 祐也	丹波小学校 5年生
京都府丹後土木事務所長賞	吉岡 佳穂	丹波小学校 6年生
京丹後市教育委員会教育長賞	山本 真未	新山小学校 6年生
京丹後市消防長賞	淡路 里香	峰山小学校 5年生
京丹後建設業協会長賞	中島 隆雄	五箇小学校 6年生
入 選	増田 祥子	新山小学校 6年生
入 選	松下 新菜	長岡小学校 6年生
入 選	吉田 悠華	吉原小学校 6年生

発行/京丹後市役所 編集/秘書広報広聴課
〒627-8567 京都府京丹後市峰山町杉谷889
☎0772-69-0110 FAX0772-69-0901
ホームページ <http://www.city.kyotango.kyoto.jp>
E-mail hishokoho@city.kyotango.kyoto.jp

人口・世帯数

男	30,589人
女	32,687人
計	63,276人
世帯数	21,276世帯
(11月1日現在)	